



「著者との対話」から「インターアクション教育実践を考える会」へ

武田 誠  
早稲田大学  
日本語教育研究センター

# 本報告のアジェンダ

1. 自己紹介
2. 本報告の趣旨
3. キーコンセプト「実践コミュニティ」の紹介
4. 「インターアクション教育実践を考える会」のあゆみ
  - ➡ 学び合いコミュニティ作りのコツ／ヒント

# 自己紹介

武田 誠

早稲田大学日本語教育研究センター  
常勤インストラクター

教 歴：15年（シンガポール、日本の大学）

専 門：第二言語習得

最近の関心：「インターアクション」、  
学習環境デザイン

インターアクション教育実践を考える会主宰



# 本報告の趣旨

- 教師の学び合いのコミュニティ作りのヒントを共有

「どうしたら作れる？」

「長続きさせるには？」

# キーコンセプト 資料 1

- 「実践コミュニティ (community of practice) 」

「実践コミュニティ (コミュニティ・オブ・プラクティス) とは、**あるテーマに関する関心や問題、熱意などを共有し、その分野の知識や技能を、持続的な相互交流を通じて深めていく人々の集団である。**」 (p.33)

E・ウェンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー (2002)

# 「インターアクション教育実践を考える会」 のあゆみ 👉資料2

- ➡ 萌芽期： アクラス研修「著者との対話」～会の発足
- ➡ 始動期： アクラス実践報告会の報告者サポート
- 発展期： メンバーの増加と会の活動本格化

# 萌芽期：きっかけは白石さんの一言

2014年4月12日 アクラス日本語教育研究所公開研修

著者との対話『日本語でインターアクション』懇親会にて

「研修会は始まりだから。  
1年後にこの教材を使った  
実践報告会をしよう。」

写真出典：<http://www.acras.jp/?p=2769>



# 萌芽期：実践報告会での発表者探し 会の発足

- ◆ 実践報告者を探す必要性
- ◆ 実践報告者の支援が必要（コンセプトの正確な理解）
- ◆ 「インターアクションのための日本語教育」実践者のコミュニティが欲しい



勉強会を立ち上げ、その活動として実践報告者を支援



# 萌芽期：会の初回会合 資料 2

## 2. この集まりの趣旨（武田案）

- ・ インターアクション教育実践を考える「会（勉強会？研究会？）」
- ・ 目指すもの： 接触場面におけるインターアクションのための教育実践ができるようになること
  - 「言語管理理論」や関連する理論、接触場面の諸問題の理解
  - 学習環境（コース、シラバス、授業、リソース）デザイン力
  - インターアクション教育を「計画→実行→評価」していける力
- ・ 多様な参加形態： 興味がある人／できる人が、できるときに、できることを

cf. Wenger, E., McDermott, W., & Snyder, M. 野村恭彦監修（2002）

『コミュニティ・オブ・プラクティス—ナレッジ社会の新たな知識形態の実践』 翔泳社

- ・ 具体的な活動： 実践持ちより会（インフォーマル）、勉強会（論文を読む、講師を迎えた講義）  
学習者の体験・経験談を聞く会 etc.

※ 活動の一環として、アクラス実践報告会の報告者サポート

・「教師力」  
養成・向上  
・教師の成長

# 萌芽期：初回ミーティング資料 より

## 3. アクラス実践報告会の報告者のサポート（武田案）

- ・ 定例会で進捗報告、問題や悩み共有、解決策をいっしょに考える。
- ・ 定例会にコアメンバー以外の人にも参加してもらい、アイデアを出してもらったり、アドバイスをもらう。
- ・ コアメンバー以外の参加者：
  - 1) インターアクション教育に興味がある日本語教育関係者（現役教師、ボランティア、教員養成課程生など）
  - 2) 接触場面のインターアクション研究者（含大学院生）：ファン先生、著者メンバー？

# 萌芽期から見えたこと： コミュニティ立ち上げまでのコツ

👉 資料 4

- 明確な目標と日程：アクラス実践持ち寄り会
- 具体的な活動内容：
  - ・ アクラス実践持ち寄り会での報告者探し
  - ・ 報告者の実践支援
- 既存の人脈の活用\*：白石さんの人脈
- 「進化を前提とした設計」\*：  
アクラス実践持ち寄り会後の活動

\*E・ウェンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー(2002)

# 始動期：定例会

- ◆ 2014年11月、2015年1月、3月
- ◆ 活動内容：インフォーマルな情報共有
  - ・ 実践の報告
  - ・ 実践上のアドバイス

# 1 月定例会でのやりとり

Q2 : 7人というまとまった人数の日本人ビジターを招いて小グループに分かれるビジターセッションを行ったことがないので、グルーピング、日本人・学習者のローテーションの方法がよくわからない。

A2 : 発話量に過度な偏りが無いよう、あらかじめ教師がグルーピングをしてしまうのも一つの方法。日本人ビジター要因に左右される面もあり、うまくできなかったとしてもそれはそれで一つの経験（例：質問好きな人、一方的に話す人）。

# 1月定例会でのやりとり

Q4：その他、ビジターにどんなことを指示しておくべきか。

A4：学習者に「親切にしすぎない」ようにビジターに伝える必要があるかもしれない。その際、「親切にしない」と言っても曖昧なので、ふつうにおしゃべりをするように、言葉に詰まっても助けがないなど、もう少し具体的に指示したほうがいい。今回は日本語教育を学んでいる日本人学生なので、日本語を教えてあげるという認識で臨まないでほしい旨は伝えたほうがいいのかもわからない。

# 始動期：実践報告者の学び

## ◆理解、考えの深まり

- 今まで行ってきた自分の取り組み・授業を客観的に捉えることができ、何が良くて何が悪かったかを冷静に振り返ることができた。
- 会に参加するごとに頭の中が整理されていった。
- 同じ教材を地域の教室ではどう使うのかなど、学校とは違う環境で学ぶ人たちのニーズなどを伺うことができ、教材をどう目の前の学習者に合わせて使っていくのかを考えることができた。

# 始動期：実践報告者の学び

## ◆ つながり、仲間意識

- 仲間がいると思うと心強かった。
- 定期的にお会いすることで、（勝手に？）仲間意識が生まれ、会に参加することが楽しくなった。（最初は、何を話せばいいのかわからず、ちょっと気が重かったのが本音です...）
- 実際に実践を行う前に、すでにこうした活動を実践している方に相談することができ大変心強かった。学校内だけの検討ではなく、学校を超えたところでの情報交換の重要性を痛感した。



# 始動期：実践報告者の学び

## ◆気づき・変化

- もやもやした「インターアクション」とはなんぞや？という気持ちを共有することができ、「インターアクション」という言葉にとらわれる必要はないのだと気付いた。
- 「これをしなくちゃ」という気持ちから「これもやってみよう、あれも試してみよう」という気持ちに変化した。
- 「インターアクション」について突き詰めて考えることが**楽しくなってきた**。  
→活動そのもののおもしろさ（美馬・山内：2005）

# 始動期：発起人の学び

## ◆理解の深まり

- ・ 実践報告者の授業での工夫を聞いていくうちに、様々な方法やテクニックを学んだ。

## ◆つながり・仲間意識

- ・ 価値観を共有できる仲間ができて、楽しくなった。

## ◆気づき・変化

- ・ 大学以外の教育現場の事情を知り、インターアクション教育は「こうあらねばならぬ」という考えがなくなった。

# 始動期からわかったこと： コミュニティを機能させるコツ

## 👉資料 5

- メンバー間のコミュニケーションを容易にする工夫：  
対面の定例会、定例会後の食事 → 仲間意識の醸成
- メンバー全員の参加を促す：  
発起人やコア・メンバーは途中から発言を控える
- インフォーマルさ、適度な「ゆるさ」：  
「コミュニティ」 vs. 「官僚主義」  
E・ウエンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー(2002) p.13
- 異なる教育現場のメンバーを集める：  
日本語学校、専門学校、地域のボランティア教室、大学

# GOOGLE+の利用

- ◆ 実践報告者と著者陣を結ぶ
- ◆ 定例会の記録（アーカイブ）

すべてのコミュニティ あなたへのおすすめ

『日本語でインターアクション』実践報告

お知らせはオンです

最近の出来事を共有しましょう

テキスト フォト リンク 動画 イベント アンケート

白石佳和 フリーター - 2015/03/29

皆様 遅れて恐縮ですが、以下のスプレッドシートに、長崎さん、藤澤さん、鎌田さんそれぞれの英語報告の記入をお願いしたいのですが、よろしくお願いたします。これまでの武田先生の定例会メモがちょうど読む（14日）

日本語でインターアクション 実践報告メモ

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1a0EJfWLV3aL49570Ywh...>

+1

6件のコメント

白石佳和 2015/03/30

メールをチェックしてもらえますでしょうか。私から共有申請のメールが届いているはずですが、念のため、違うメールも送ります。

コメントしよう

Makoto Takeda オーナー 定例会メモ - 2015/03/01

2015年2月定例会のメモです

このコミュニティについて

ユーザーを招待 このコミュニティを共有

このコミュニティは、アクラス日本語教育研究所で『日本語でインターアクション』（凡人社）を使った教育実践報告をする実践者と上級生の著者陣との事前交流を目的としています。

コミュニティ建設の趣旨から、メンバー限定とさせていただきます。

白石佳和さんが最初に共有した投稿

4月のアクラス研修に向けて、打ち合わせを行います。藤澤さんの実践報告などをうかがい、アクラスでの発表の詳細を打ち合わせます。よろしくお願いたします。参加予定者にメールもお送りします。よろしくお願いたします。

3月定例会

📅 3月31日（火）18:00

📍 友国院文化学苑

👤 藤沢裕美、他 2人が参加

参加しましたか？

はい - +0人のゲスト - 写真を追加

# FACEBOOKへの移行

<http://u111u.info/jSBb>

インターアクション教育実践を考える会

武田 誠

プロフィールを編集

お気に入り

- ニュースフィード
- メッセージ
- イベント
- いいチームを作り...
- 701
- インターアクショ...
- 保存済み

アプリ

- ゲーム
- 過去のこの日
- Restaurant City
- ノート
- 友達を検索
- 診断チケット

グループ

- Hannah Arendt ...
- ISLS International S... 2
- プリメン
- 日本語教育ドーナ...
- 日本語教師講師室
- グループを作成
- 新しいグループ

友達

- 早稲田大学

趣味・関心

- ページと著名人

イベント

- 【1席空きました！...
- フォロー中のイベ...
- イベントを作成

FACEBOOKページ

武田 誠 ホーム

インターアクション教育実践を考...  
非公開グループ

参加済み シェア お知らせ

ディスカッション メンバー イベント 写真 ファイル

このグループを検索

投稿する 画像/動画を追加 質問する ファイルを追加

何か書け...

固定された投稿

武田 誠さんが質問を投稿しました。  
8月8日

会のみなさま  
ご無沙汰しております。発起人？の武田です。  
さて、秋から活動再開と予告しておりましたが、共同創設者？の白石先生と相談し、具体的な日にち、場所を決めました。  
そこで、ご相談です。できるだけ多くの方に参加していただきたいので、午前か午後かの時間帯の希望をお聞きしたいと思います。8月末を目処に回答をお願いいたします。  
日にち： 10月17日（土）... もっと見る

- 午前 (10時くらいから) +3
- 午後 (13時以降) +2
- 午前のほうがよくなったのですが、午後でも途中まで参加します!

選択肢を追加...

いいね! 8件 コメント1件

いいね! コメント

メンバー 30人

グループメンバーを追加

メッセージ・メールで招待

説明  
この会では学習者の「インターアクション」...  
さらに表示

グループを作成

グループを作成して、友達や家族、チームメイトと簡単に情報をシェアしましょう。

グループを作成

最近のグループ写真 すべて表示

おすすめのグループ すべて表示

# SNSの利用

- 「さまざまなレベルの参加を推奨する」  
E・ウェンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー(2002)
- 「ナレッジ・レポジトリ（知識の貯蔵庫）」  
E・ウェンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー(2002)
- 「共同体のライブラリー」 美馬・山内 (2005)
- 「オンラインのディスカッションのための話し合いの場」  
向後 (2015)

# 参考文献と資料

## 👉 資料 7

- 向後千春（2015）『上手な教え方の教科書-入門インストラクショナルデザイン-』技術評論社
- 美馬のゆり・山内祐平（2005）『「未来の学び」をデザインする-空間・活動・共同体-』東京大学出版会
- 三崎隆編著（2015）『教師のための「学び合い」コミュニティのつくり方-教師同士・学校同士のつながりを高める実践-』北大路書房
- E・ウェンガー、R・マクダーモット、W・M・スナイダー 著、野村恭彦監修、櫻井祐子訳（2002）『コミュニティ・オブ・プラクティス-ナレッジ社会の新たな知識形態の実践-』翔泳社

# 参考文献と資料

## 👉 資料 7

- ◆ アクラス日本語教育研究所の実践持ち寄り会報告記事  
<http://www.acras.jp/?p=4073>
- ◆ インターアクション教育実践を考える会Facebookグループ  
<http://u111u.info/jSBb>